



総題 「ローマの信徒への手紙」における贖い

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

第10課 ユダヤ人と異邦人のための贖い^{あがな} 村沢 秀和 2010, 8, 28~2010, 9, 3

1. パウロの重荷 8月29日（日曜日）

「わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります」（ローマ 9:2）

イスラエル人は、神様に選ばれた特別な民でした。神様はイスラエル人を通して神の愛と憐れみが世界に伝えられるように計画されました。ところが、その特別な民が、キリストを拒み十字架につけてしまったのです。パウロにとってこれは深い悲しみであり、また心の痛みでした。

しかし、イスラエルに与えられた約束が完全に失敗したわけではありませんでした。というのはすべてのユダヤ人がキリストを拒んだわけではなかったからです。初代の信者はそのほとんどがユダヤ人でしたし、パウロ自身もそうでした。そこでパウロはローマ9章の中で、神のご計画が実行されるのは単に血統的に〈祖先からの血のつながりとして〉イスラエル人であるということではなく、神の選びがそこにはあるのだということでした。

2. 選ばれた者 8月30日（月曜日）

「神はモーセに、「わたしは自分が憐れもうと思ふ者を憐れみ、慈しもうと思ふ者を慈しむ」と言っておられます」（ローマ 9:15）。

パウロは神様に選ばれた者が、神様の計画を実行していくのだということを、イスラエルの歴史から説明します。例えば、アブラハムの子であるイシマエルとイサクです。母親は違いますが、血統的にはどちらも正当なアブラハムの子孫です。また、イシマエルは長男ですから、人間的にはこちらが跡継ぎとなるはずでした。しかし、神様の選びは初めからイサクだったのです。同じことが、ヤコブとエサウの兄弟についてもいえます。エサウが長男ですから、人間的には長子の特権をひき継ぐのはエサウなはずですが、神様が選ばれたのはエサウではなく、弟のヤコブでした。このように歴史的にも選ばれた民とは、単に血統的^{たん}子孫ということではなく、その中にも神様の選びがあったのです。

3. 秘められた計画^ひ 8月31日（火曜日）

「人よ、神に口答え^{くちこた}するとは、あなたは何者か。造られた物が造った者に、「どうしてわたしをこのように造ったのか」と言えるでしょうか」（ローマ 9:20）

すべてのことの背後に神様の選びと、拒絶きよぜつ（拒むこぼむ、断ことわる）があるならば、神様を拒むものをどうしてせめることができるだろうか、神様にも責任があるのではないかという人があるかもしれません。実際このような質問を受けることが度々あります。しかし、このことに対して、パウロはそっけなく答えます。彼の答えは「誰にも神様に言い逆さからう権利をもっていない」ということでした。

パウロはわたしたちを粘土から作られた陶器とうきにたとえて、造られたもの（わたしたち）が造った方（神）に対して「どうしてわたしをこのように造ったのか」と言えるだろうか、と言ってそれを説明しています。しかし、わたしたちが何の反論はんろんもできない土くれに例えられることに対して、少しおもしろくないな～と思う人もいるかもしれません。しかし、陶器師である神様はわたしたちを愛し、最高の作品に仕上げてくださいるのです。これを信じていくのが信仰者の歩あゆみなのです。

4. “アンミ”—— 「わたしの民」 9月1日（水曜日）

「神はわたしたちを憐れみあわの器うつわとして、ユダヤ人からだけでなく、異邦人いほうじんの中からも召し出してくださいました」（ローマ 9:24）。

パウロは歴史的に、常に神様の選びがあり、それは常に正しかったことを語るわけですが、その先にあるものは、いまや神の選びは異邦人にも及ぶことになったのだということでした。パウロはそのことを再び聖書から立証します。それはホセア書の言葉です。

「ホセアの書にも、次のように述べられています。「わたしは、自分の民でない者をわたしの民と呼び、愛されなかった者を愛された者と呼ぶ。『あなたたちは、わたしの民ではない』と言われたその場所で、彼らは生ける神の子らと呼ばれる」（ローマ 9:25～26）。

5. 彼らはつまずきの石につまずいた 9月2日（木曜日）

「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石さまた、妨げの岩を置く。これを信じる者は、失望することがない」と書いてあるとおりです」（ローマ 9:33）

小さな石ころひとつでも、わたしたちは簡単につまずき、転ころんでしまいます。多くのユダヤ人はつまずきの石につまずいてしまいました。それは、多くのユダヤ人たちが、信仰によってではなく、行いによって義となるかのように考えたからです。彼らはつまずきの石につまずいたのです。そのつまずきの石とは、イエス・キリストのことでした。しかし、異邦人クリスチャンは、このつまずきの石を信じることによって、義とされたのです。